

日本鳥学会ポスター賞受賞者

2021年10月1日更新

2021年度

《繁殖・生活史・個体群・群集》分野

受賞 ○澤田明(国環研・学振PD)・岩崎哲也・井上千歳・中岡香奈・中西啄実・澤田純平・麻生成美(大阪市大・理)・永井秀弥・小野遥・高木昌興(北大・理)
「メスの生存が南大東島のリュウキュウコノハズク個体群の運命を左右する」

次点 ○飯島大智・村上正志(千葉大学大学院・融合理工)
「亜高山帯から高山帯への資源補償と高山性鳥類の餌生物」

《行動・進化・形態・生理》分野

受賞 ○小原愛美(東京農工大連合農)・青山真人(宇都宮大農)・杉田昭栄(宇都宮大農・東都大学)
「ハシブトガラスによる画像弁別はなにを手がかりにしているか？」

次点 ○辻本大地(京都大・農)・安藤温子・中嶋信美(国立環境研究所)・鈴木創・堀越和夫(小笠原自然文化研究所)・陶山佳久・松尾歩(東北大・農)・藤井智子(多摩動物公園)・井鷲裕司(京都大・農)
「海洋島に進出した陸鳥は島嶼適応として飛翔能力を維持することがある」

《生態系管理/評価・保全・その他》分野

受賞 ○井川洋・笠原里恵(信大・理)
「長野県諏訪湖湖岸のヨシ原における繁殖期のオオヨシキリ出現に影響する要因の検討」

次点 ○赤松あかり・青木大輔(北大院・理, 長野アカモズ研)・松宮裕秋(EAC, 長野アカモズ研)・原星一(長野アカモズ研)・古巻翔平(長野アカモズ研, 北大・理)・高木昌興(北大院・理)
「希少種アカモズの繁殖に好適な果樹園環境と個体数減少要因を探る」

2020年度

(新型コロナウイルス感染拡大により開催中止)

2019 年度

《生態・行動》分野

受賞 ○西田有佑 (大阪市立大)・高木昌興 (北海道大)
「モズの越冬期の生息地利用が、はやくにえ貯蔵量や求愛歌の魅力に与える影響」

次点 ○植村慎吾・高木昌興 (北海道大)
「琉球列島の島間で異なる音響環境に適応したさえずりによる生殖隔離」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

受賞 ○中原多聞・林昭次・奥田ゆう・皆木大生・小平将大・知花宇晃・亀崎直樹 (岡山理大)・
進藤英朗・久志本鉄平・上原正太郎 (下関市立しものせき水族館)・村上翔輝・恩田紀代子
(ニフレル)・石川恵・伊東隆臣 (海遊館)・毛塚千穂・樋口友香 (須磨海浜水族園)・安藤達郎
(足寄動物化石博物館)
「骨内部構造から考察するペンギン類の水棲適応」

次点 ○佐藤一海・向井喜果・鎌田泰斗・佐藤雄大・山田新太郎・関島恒夫 (新潟大)
「飛行特性を反映させた大型水禽類 4 種のセンシティブティマップ」

2018 年度

《生態・行動》分野

受賞 ○清水拓海 (慶應義塾大学)・夏川遼生 (横浜国立大)・湯浅拓輝 (慶應義塾大学)・一ノ瀬友博
(慶應義塾大学)・黒田裕樹 (慶應義塾大学)
「トラフズクのペリットに対するメタバーコーディング技術の応用」

次点 ○榊原貴之 (岩手大・院)・野口将之 (魚鷹研究チーム)・吉井千晶 ((株)建設技術研究所)・東
淳樹 (岩手大・農)
「巢内カメラを用いた内陸ミサゴの餌内容解析 ―外来魚利用の実態―」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

受賞 ○青木大輔 (北大院・理)・松井晋 (東海大・生物)・永田純子 (森林総研)・千田万里子 (山階
鳥研)・野間野史明 (総研大・先端科学)・高木昌興 (北大院・理)
「絶滅した自然集団の DNA から生物が新しい集団形成を可能にする条件を探る」

次点 ○佐藤一海・向井喜果・鎌田泰斗 (新潟大・院・自然科学)・森口紗千子 (日獣大・獣医)・
関島恒夫 (新潟大・農)
「風車への衝突リスク低減を目指したオオヒシクイの三次元的センシティブティマップの
提案」

2017 年度

《生態・行動》分野

受賞 ○西條未来・沓掛展之(総研大・先導研)

「チドリ目における対捕食者行動の決定要因: 種間比較による検討」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

受賞 ○向井喜果(新潟大・院・自然科学)・安藤温子(国立環境研究所)・布野隆之(兵庫県立人と自然の博物館)・関島恒夫(新潟大・農)

「DNA バーコーディング法と安定同位体比分析を組み合わせたオオヒシクイの食性解析」

2016 年度

《生態・行動》分野

受賞 ○加藤貴大・沓掛展之(総研大・先導科学)

「スズメにおける胚の性特異的死亡: 生理的・生態的要因の解明」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

受賞 ○松下浩也・土岐田昌和(東邦大・理)

「鳥類における弁足の進化とその形成機構～バンとオオバンの胚発生の比較から～」